



岡村金太郎のサクラノリ

仲田 崇志

サクラノリ（桜苔／桜海苔）は現在 *Grateloupia imbricata* Holmes とされるが（吉田ら 2015），かつては様々な藻類を指してきた。明治の文献ではコメノリ *Polyopes prolifer* (Hariot) Kawaguchi & H.W. Wang*¹（岡村 1902，遠藤 1911）・オキツノリ *Gymnogongrus flabelliformis* Harvey（大阪；岡村 1902，遠藤 1911）・カタノリ *Grateloupia divaricata* Okamura（山陰；遠藤 1911）などの異名とされ、『日本国語大辞典，2版』*²も，和歌山（日高郡）の方言でアマノリ *Pyropia* spp. を，高知（幡多郡）の方言でヒラコトジ *Chondrus pinnulatus* (Harvey) Okamura を指すとしている。基本的には叉状分岐する紅藻類を指したようだ。

岡村（1902，1916）はサクラノリをコメノリやオキツノリの異名としたが，岡村（1934，p. 29）は和名のなかった *Grateloupia imbricata* をサクラノリとし，同年 11 月の日本植物学会総会で詳細を講演した（日本植物学会 1934，岡村 1935；図）。曰くサクラノリは類似種との区別が困難で，学名についても「必しも之が正當だと云わない」と，ある程度恣意的な同定であることを認めている。

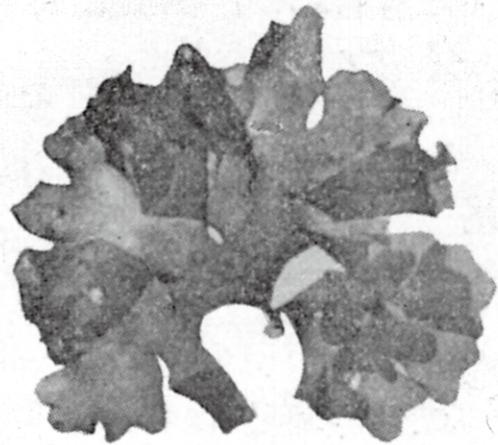
様々な紅藻類を指したサクラノリを特定の種に限定してよいものか疑問ではある。しかし岡村は，馴染みあるサクラノリの名を残すために和名の空いていた *Grateloupia imbricata* に当てたのかもしれない。考えすぎだろうか。

*¹ 学名は現行のもの。以下同様。

*² 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）。

引用文献

- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（編）2001. 日本国語大辞典，2版，5. 小学館，東京。
 日本植物学会 1934. 学会録事. 植物学雑誌 48: (35)-(42).
 岡村金太郎 1902. 日本藻類名彙. 敬業社，東京。
 岡村金太郎 1916. 日本藻類名彙，2版. 成美堂，東京。
 岡村金太郎 1934. 日本藻類図譜，7巻4集. 著者，東京。
 岡村金太郎 1935. コメノリ，マツノリ，サクラノリ. 植物及動物 3: 1999-2007.
 遠藤吉三郎 1911. 海産植物学. 博文館，東京。
 吉田忠生・鈴木雅大・吉永一男 2015. 日本産海藻目録（2015年改訂版）. 藻類 63: 129-189.



1



2

岡村（1935）掲載のサクラノリ *Grateloupia imbricata*。